

中国における市場、仲介、情報

慶應大学経済学部
古田和子

市場

(1) 中国の市場をどうみるか

市場経済的特徴（土地売買の規制、社会的分業の世襲的固定化、宋代以降は原則的に存在せず／土地売買、生業選択、小作・雇用関係など民間の自由契約／「市場の危険性を考慮した上で個々の農民が慎重に選択したところの自給性」）

一方で「完全な市場」「近代的市場」とは異なる特徴の存在。

(2) 放任された自由をどう評価するか

秩序の欠如、恣意性、「内面的に共有された規範が存在しない」

契約文書や中人の証言、地方裁判における個別事情への配慮は恣意と等置ではない。

（寺田、岸本）

前者は pessimistic、後者は optimistic ではないが、中国固有の秩序のあり方・公共性のあり方を問おうとする意味で positive な姿勢。

(3) 西欧世界の勃興をもたらした所有権の確立過程、領域国家の成立、市場経済の拡大の相互作用が、なぜ中国には見いだせないのかを問うよりも、前二者を欠いた状態で、きわめて競争的かつ不安定な市場が、なぜ社会的には維持されてきたのか、原子論的市場が持つ機会主義や市場の失敗は、どのような制度によって回避、補填されてきたのか。そのことを中国の市場秩序のあり方のなかに問うことの方が意義深い。

・ 仲介

(1) 中国経済は経済過程のなかで仲介の占める割合がきわめて大きい経済である。仲介はいわゆる一般的な物と物との取引の関係から、土地の売買・用益に関する契約、人の保証・雇用・紹介にいたるまで、二者間で結ばれるさまざまな社会的関係に介在。

仲介／中人／保人／包

包「人と人或いは人と物との間に第三の人が入り込んでその取引を請け負うこと」「経済過程の人的道程 Weglange をそれだけ長大ならしめる秩序」「経営成果の確定が生産過程の合理的技術的終了を俟って実現されるのではなく、人的契約過程に於て実現せられるのである。過程の技術的採算性が問題なのではなく、契約的採算性が問題なのである。」（柏 p.247-8）

市場秩序は、あらゆるレベル、あらゆる分野に介在する仲介という制度によって保証。成果の不確定性を逡減ないし第三者に転嫁するための制度としての仲介。

(2) 鎮市（農村の小市場町）における取引の場合（古田 1985）

Technology Transfer and Local Adaptation / 国際市場向け生産と受け手社会の主体性中国経済における仲介機能の社会的意味が、微妙な形で技術の受容過程を規定

村と世界市場 農村の小市場町・集散地・開港場と幾重もの仲介の鎖で結ばれる。

蚕市／蚕種行／桑行 糸行／再繰糸行／集散地糸行／糸號

農民・糸領・船頭・糸行

「（湖州の農民は）生糸を売る農民として、鎮に対して競争的な関係を保つ一個の取引主体としての存在を早くから確立していたように思われる。市場は生き馬の目を抜く所であったが、危険と裏返しに儲けの可能性もまた存在した。どこの糸行はどのような糸をどのくらいの値で買い取るのか、物の取引に必要な情報を持っている仲

介人がいるのも鎮・市場町である。仲介者の介在にかかる手数料は、取引を成立させる秩序を維持させるための費用として考えられており、また、仲介者が持っている細かい情報・知識は、それを保有すること自体にコストがかかることを、農民は充分に理解していたようだ。」

徹底した「自由競争」と一見古風なまでの「私人的保証」の併存（村松 p.179）
鎮におもむくことが自己の取引環境を整えることを意味する。

市場誘導的生産

仲介は、恒常的な顧客関係を形成せずに、しかし一回限りのスポット市場での取引が持つ機会主義を回避するための一つの制度として機能。

(3) 取引主体の独立性

第一の人と第二の人、その間に入る第三の人はいずれも独立的な個別経済主体。独立性を保った主体が、しかし、仲介や包や保人などを介して社会的、経済的関係を結ぶ。その関係は基本的に二者間の関係である。

関係や連結をつくりだす原理を内包

合股/股のネットワーク

中国商人のネットワークは仲介の連鎖

知識や情報の獲得（ないし不確実性の除去）は、仲介の連鎖によるネットワークによって実現（取引コストの逡減）仲介にかかる費用はネットワークの創出・拡大・維持に対するコストの支払いを意味する。

・ 情報

(1) 第一と第二の人の双方の事情に比較的通じているという特性が、その第三の人が仲介者としての機能をはたす正統性の根拠となっている。

specific information / information on spot （ハイエク p.57-9）

クラブ財としての情報

(2) 私人的保証である。具体的な「その場」「その分野」の秩序を保証するだけ。したがって、保証の根拠は普遍的な形をとって法的に明文化できるようなものではない。しかし、「その場」「その分野」がそれぞれ保有している不確実性は確かに仲介者に転嫁され除去されて逡減したという認識が、取引の当事者間に成立している。つまり、これが「人々の目に映った秩序の形」(岸本) 私的、しかし、恣意的とは映らない根拠は情報の保有と不確実性の除去にある。

(3) 情報財に対する認識の存在

一義的価格でなく一定の幅を持った伸縮的価格

「一般均衡論の世界では、全商品において需給が一致するまで、取引も価格も成立しない。このような調節機構は実際には運営できないし、できたとしても巨大な中央組織を必要とするであろう。一般均衡論は市場経済を模擬するといいつながら、実際にはそれとまったく異なる調節原理を持ち込んでいる。」(塩沢 p.319)

不完全情報下の市場取引では、「総需要と総供給とが均衡する以前から、各個人はその時々々の価格で取引を行う。ワルラス型モデルでみれば不均衡価格のまま、取引が実施されることになる。こういう均衡において成立する価格は、ワルラス型均衡価格のように一義的なものにはなりえない。」(原 p.121)

伸縮的価格である。しかし、その価格にはその鎮市における安定的な価格の幅というものがあり、仲介者はその幅がどのくらいのものであるかを知っている存在。

雑種幣制の中華帝国経済 / 朝夕の変動と大量に行われる換算

(4) 再び「市場」について

経済学における「市場」のとらえ方の変化 不完全な情報下の市場 / 限定的合理性
情報の不完備と非対称 informatinal incompleteness and asymmetries
「情報は、経済全体の中で、局所的に分散して存在する」(P.Milgrom/J.Roberts p.28)
市場は需要と供給が会う場。市場が成立するためにコストがかかる。
情報を与件として扱ってきた新古典派の経済学に比べて、中国経済ははるかに情報・知識の経済学的市場観を備えていたといえよう。

・資本主義

(1) 「境域の経済秩序」(古田 1999)

上海を中心に朝鮮、日本にネットワークをはって、異種類の貨幣を交換し為替差益をもとめる中国商人の行動(20世紀転換期)

境域「上海ネットワーク」と「黄海交易圏」

境域の経済秩序めぐり両者のせめぎあい

通貨圏の選択

日本の金本位制移行(1897年) 金と銀の乖離に直面

日本は金本位制、朝鮮は円為替本位制に作り替え、朝鮮の中国商人も衰退?

19世紀末まで 朝鮮から上海へ金の流出

20世紀初から 朝鮮から日本へ金の収奪

朝鮮の中国商人は商品の支払い代金を(在朝鮮の)第一銀行券で受け取り、それを日本銀行券(金兌換券)に交換。日銀券を日本に持ってきて金貨に兌換し、その金貨を上海に送っている。しかも、上海市場で盛んに金銀の相場を建てているのである。(「清韓視察報告」『勝田家文書』第117冊二)

中華帝国は、債権債務関係が行政的境界を超えて成立することを前提とする社会であった。(黒田 1994 p.324)

帝国内部の地域間取引も、為替関係でむすばれる国際取引に似た状況。

国民経済的発展?

地域経済内の流動性が対「地域」外収支に影響されずに保持されることにより、地域間通貨である銀の流出をふせぐために地域内で移出産業を育成するという国民経済的発展の動機は生じにくい。(黒田)

ある領域の対外収支の均衡を第一に考えて行動する制約から解放されたトランスナショナルな企業体

諸通貨の自由競争的な「雑種幣制」を特徴とする中華帝国経済

世紀転換期に日本が対応を迫られた相手は、清朝という国家というよりも、「境域を支配する経済秩序」のあり方であった。

(2) 今日の情報資本主義における「グローバル化」は商人資本主義なのである。

なぜなら、もっとも単純な商品である貨幣を安い所で買い高い所で売るから。(岩井)

(3) 情報の占める比重 / 価値の差別化と資本主義

参考文献

青木昌彦・奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』東京大学出版会、1996年。
ブローデル、フェルナン『物質文明・経済・資本主義 15-18世紀 - 1 交換のはたらき1』 - 2 交換のはたらき2』みすず書房、1986、1988年。
古田和子『『湖系』をめぐる農民と鎮』『東京大学教養学科紀要』第17号(1985年)

- _____ 'Peasant, Market Town, and Handicraft Technology', in Akira Hayami and Yoshihiro Tsubouchi eds., Economic and Demographic Development in Rice Producing Societies(Proceedings prepared for Tenth International Economic History Congress, Lueven, 1990), 1989.
- _____ 「製糸技術の移転と社会構造 - 日本と中国の場合 - 」川北稔編 『シリーズ世界史への問い 2 生活の技術 生産の技術』岩波書店、1990年。
- _____ 「境域の経済秩序 - 上海ネットワークと黄海交易圏 - 」『岩波講座世界歴史 第23巻 アジアとヨーロッパ』岩波書店、1999年。
- 岩井克人 『資本主義を語る』ちくま学芸文庫、1997年。
- 柏 祐賢 『経済秩序個性論 - 中国経済の研究 - 』人文書林、1947 - 48年。
- 岸本美緒 『清代中国の物価と経済変動』研文出版、1997年。
- _____ 「『市場史の射程』コメント - 中国史から - 」『社会経済史学』第63巻第2号 (1997年)。
- _____ 清代中国の経世論における貨幣と社会」歴史学研究会編 『シリーズ歴史学の現在 1 越境する貨幣』1999年。
- 黒田明伸 『中華帝国の構造と世界経済』名古屋大学出版会、1994年。
- _____ 「20世紀初期太原縣にみる地域経済の原基」『東洋史研究』第54巻第4号 (1996年)。
- _____ 「伝統市場の重層性と制度的枠組 - 中国・インド・西欧の比較 - 」『社会経済史学』第64巻第1号 (1998年)。
- コース、ドナルド・H 『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。
- 塩沢由典 『市場の秩序学』筑摩書房、1990年。
- ノース、ダグラス・C 『文明史の経済学 財産権・国家・イデオロギー』春秋社、1989年。
- _____ 『制度・制度変化・経済成果』 洋書房、1994年。
- ハイエク、F.A. 『市場・知識・自由』ミネルヴァ書房、1986年。
- 原洋之介 『エリア・エコノミクス - アジア経済のトポロジー』NTT 出版、1999年。
- 村松祐次 『中国経済の社会態制』東洋経済新報社、1949年(復刊1975年)。
- Milgrom, P./J.Roberts(奥野正寛他訳) 『組織の経済学』NTT 出版、1997年。
- 宮澤健一 『制度と情報の経済学』有斐閣、1988年。
- 関本照夫 「二者関係と経済取引 - 中部ジャワ村落経済生活の研究」『国立民族学博物館研究報告』第5巻第2号 (1980年)。
- 寺田浩明 「権利と冤抑 - 清代聴訴世界の全体像」『法学』(東北大学法学会)第61巻第5号。
- Thompson, Grahame eds., Markets, Hierarchies and Networks: The Coordination of Social Life, London: Sage Publications, 1991.
- Williamson, Oliver E. Markets and Hierarchies, New York: Free Press, 1975.